
天靈魔戦記（仮）

木の人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天靈魔戦記（仮）

【Zコード】

Z5700Y

【作者名】

木の人

【あらすじ】

無数に広がる世界の1つに3つの種族がいた、この世界で生きる少年は何を見るのか……

完全なオリジナルです、暇な時にでも読んでもらえたら嬉しいです

今の所このタイトルにしますがもしかしたらタイトルが変わるかも

しれません

プロローグ（前書き）

どうも、木の人です。

完全なオリジナル小説ですのでグダグダになるかもしませんがよろしくお願いします

プロローグ

…無数に広がる世界…そのとある世界に3つの種族がいた…

物理戦闘、魔法戦闘を平均的にこなす**靈族**^{ヒューマン}

魔法戦闘を得意とする**天族**^{セイイン}

物理戦闘を得意とする**魔族**^{ダーカス}

この3つの種族は自らの国を作り比較的平和に過ごしていた…
…のだが

ある日、魔族が靈族・天族に対して宣戦布告をした。この事態に靈族、天族は同盟を結び魔族を迎撃ち戦いを始めるのだが……各々が得意とする戦い方によりすぐには決着がつかなかつた…

この戦いが長引いたことにより互いの種族は戦力を取り戻すため一時的な休戦に入る、失った戦力を取り戻すために靈族と天族はある職種と学園を作ることを決めた。その職種の名は【**靈騎士**と**天騎士**】^{れいきし てんきし}学園の名は【**天靈学園**】^{てんれいがくえん}

学園設立から数十年後…初めは戦力補強のためだったが長い休戦状態のせいで徐々に薄れていき今では騎士を夢見る1-5を過ぎた子供たちが日々訓練に励むようになっていた…

そして…この学園に一人の少年がいた…

「う…ふあ…朝…か」

「やつと起きたか、さつさと行かねえと遅刻になるぜ?..」

とある部屋にてベッドの上で眠そうとしている黒髪の少年と部屋を出る準備ができている金髪の少年がいた

「……おう…すぐ支度すっから…待つてろ…」

「眠そうだな…おい」

「つるせえ……………出来た」

「早え…」

「朝から騒ぐな、行くぞ」

「はいはー」

…この物語は天靈学園に入学している一人の少年の物語である…

プロローグ（後書き）

主人公の名前などは次の話で明かされます

観覧ありがとうございます

1話（前書き）

今回は主人公とその仲間を書きました

多分グダグダになつていない……はずです

ある学園に続く道を一人の少年が歩いている、一人は黒髪の短髪、もう一人は長髪で髪の色が金髪の少年

「ふあ～～寝たい…」

「毎度のことながら寝るのが好きだなお前」

「当たり前だ、あの布団のフカフカ加減はやめられねえ……帰つて寝る」

「帰るな！！」

俺が来た道を戻ろうとするガシツと襟を掴まれた、帰らせよう

「離せ『シオン』、布団が俺を呼んでんだ」

「呼ばれんのは寝る時か女いるときに呼ばれる、第一俺がお前をさぼりせると思つてゐるのか？『想夜』？」

「…………ないな」

「だり、といつわけでもうれと学園に行くぞ～」

「機嫌良いなお前」

「今日は実習の日だらうが、やつと戦えるぜ」

「お前に会つてから何回も言つてゐるがお前本当に天族か？」

隣にいるこいつ…『シオン・ガルダス』は天族セイインと呼ばれる種族だ、本来の天族は自分から戦いを挑むのはあまり好まないらしいがシオンはその逆……戦いが大好きで自分から挑みに行くいう変わり者

「どうからどう見ても天族だろ？まあこの性格のおかげでかなり浮いてるがな」

「だったらその性格直せよ」

「やだね」

「……はあ……お前のせいで実習の度に早く起きなきゃいけねえんだ……いいからさつさと直せ」

「やだね~ 僕から戦いを盗つたらなんもないしな~」

「…………帰る」

「だから帰るな!!」

また襟を掴まれた、かなり首がイテエんだが…

「たく…俺からも言わせてもらひつがお前は寝ることしか頭にねえのか？」

「そりだがなんか文句あるか？」

「はあ…お前は靈族だろ？ 少しほほほめる氣出せよ

「あれだろ、『靈力』が俺達1年の中で上位なのに『靈術』しゅうじゆが使えないって奴だろ？」

「ああ…そのせいでも俺も浮いてんだよ」

何故か知らねえが俺は『靈術』と呼ばれる魔法が使えない…それを使うための源である『靈力』はあるんだがな…

「おかしな話だよな、靈力あるのに靈術が使えないってのは

「ああ、他の奴らの見下した視線がウゼ^ヒがもう慣れた

「それならいいじゃねえか、ほらさつと行くぞ

「引っ越し…シオン！」

「さて、実習が楽しみだ

「おい聞いてんのかー。さつさと離せー。」

そのまま俺はシオンに引っ張られ通っている学校…『天靈学園』
に向かった

「着いたぜ想夜」

「いいから離せー。首イテエんだ」

「あ、ワリィ」

俺達の教室の近くでやつと詩音が俺を離した、首イテエな…本当に…

「たく…仕方ねえな、教室入るか」

「だな、そしてそのまま実習へ」（笑）

「実験実験つむるせー」

ガラツツと教室のドアを開ける、俺とシオンが入ると……

「2人ともおつはよ~」

黒い髪をツインテールにしている女子が話しかけてきた

「よつ『るな璃菜』、ねはよつぞん」

「シオンおはよ~ 想夜は相変わらず眠そうだね」

「ああ眠い、そしておはよつ璃菜」

「うふ、おはよ~」

「いっちは『すいれんな水怜瑠奈』、俺と同じ靈族で昔からの知り合い……いわゆる幼馴染だ。ついでに言つとシオンは此処に入学するときに知り合つた

「瑠奈、『アキナ』はまだ来てないのか?」

「多分もむすべぐ来るんじやないかな」

「そんでよ、お前実姫の時はアキナと組むのか？」

「うそ、シオノは想夜ど？」

「当たり前だろ、同じ浮いてる者だし、組めば最強ってな」

「俺は迷惑してるがな」

「でも『ハビネーション』は良こよね、想夜とシオノ」

「それはお前たちもだろ」

俺とシオン、瑠奈の3人が適当に話をしていると赤色の髪で短髪の少女が教室に入ってきた

「おひまつねー」

「アキナ、ギリギリだよ」

「「ぬぐぬぐ、瑠奈、今日の実姫の時はようじくね

「うそ、おへじみわいわいアキナ」

瑠奈と話してるのは『アキナ・トライス』、瑠奈が此処に入学

した際に出会つて幼馴染だからと言つ理由で俺も知り合つことになつた

「ん、そろそろ席に着いとくか」

「そうだな」

「「「うん」」

俺達が自分の席に座つて少し経つと教室に軽装の鎧を着た男が入つてきた

「よ～お前ら全員いるな、今日は実習の日だ、2人組になってグラウンドに行けよ」

「「「「「はいー」「」「」「」「」「」」

その一言でクラスの奴らはペアを組み教室から出て行く

「想夜、今日も頼むぜ」

「仕方ねえな」

「瑠奈頑張ろ!」

「うん」

俺達もペアを組みグラウンドに向かいついた…

1話（後書き）

観覧ありがとうございます

キャラ設定は明日投稿したいと思います

キャラ設定（前書き）

簡単ですがキャラ設定です

キャラ設定

名前 黒河 想夜
くろかわ そうや

年齢 16

性別 男

天靈学園に通っている^{ヒューマン}靈族の少年。1年生の中では靈力が上位に入るほどだが靈術が使えない。

水怜 瑠奈とは幼馴染の関係
すいれん るな

名前 シオン・ガルダス

年齢 16

性別 男

想夜と同じクラス及び同じ部屋の天族^{セイン}の少年。周りの天族とは違う戦いが好きと言う変わり者なため周りから浮いている

想夜とは入学した時に出会い仲の良い関係

名前 水怜瑠奈

年齢 15

性別 女

想夜と幼馴染の靈族の少女。想夜はもちろん、シオンとアキナとも仲が良い

名前 アキナ・トライス

年齢 15

性別 女

アキナと仲が良い天族の少女。こちらも想夜、シオンとも仲が良

い

キャラ設定（後書き）

小説が進むにつれキャラ設定も更新します。

これからもよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5700y/>

天靈魔戦記（仮）

2011年11月21日06時56分発行